

根津鋼材

生産現場 完全ペーパーレスに

モニタ活用、業務効率化

有力コイルセンターの根津鋼材（本社・東京都荒川区東日暮里、社長・根津訓光氏）は、来年3月までに、生産現場における完全ペーパーレス化を目指す。

独自のIT技術を活用し、事務所や工場で行・発生する種々の紙データは全てコンピュータシステム上でファイルして現場に配備し、事務作業の効率化はもたらさる。

事務所と工場との間では、加工指示書や工程表、母材入庫リストや異常報告書など種々の送り状が紙データでやりとりされている。

同社は電機・OA向けを主体とする小ロット多品種・短納期型で、例えば加工指示ひとつ取っても1日の中で追加・変更が頻繁に生じる。紙データの場合、

その都度、事務担当者が事務所と現場とを往き来して周知・指示するが、伝達部署が多く、しかも急な対応を要する。

ただ、事務担当者の負担が増大。万一のヒューマンエラーも生じかねない。

同社ではペーパーレス化に向け、長年かけて事務所と現場の自動化に取り組んできた。独自の情報システム事業に関する専門部門を持ち、全社一体となって業務効率化と管理体制の強化を推し進めてきており、現在、システム構築の最終段階にあるという。

すでに一部の作業場では、事務所からのデータがLANを経由して現場に伝達され、従来の紙データでのやりとりからペーパーレス化されており、来年3月までには子会社の村田鋼業（本社・千葉県浦安市）を含む全ての部署・職場で実践されること。



モニタ（写真左側）に表示された加工指示に従って刃組み

同社は電機・OA向けを主体とする小ロット多品種・短納期型で、例えば加工指示ひとつ取っても1日の中で追加・変更が頻繁に生じる。紙データの場合、その都度、事務担当者が事務所と現場とを往き来して周知・指示するが、伝達部署が多く、しかも急な対応を要する。ただ、事務担当者の負担が増大。万一のヒューマンエラーも生じかねない。同社ではペーパーレス化に向け、長年かけて事務所と現場の自動化に取り組んできた。独自の情報システム事業に関する専門部門を持ち、全社一体となって業務効率化と管理体制の強化を推し進めてきており、現在、システム構築の最終段階にあるという。

すでに一部の作業場では、事務所からのデータがLANを経由して現場に伝達され、従来の紙データでのやりとりからペーパーレス化されており、来年3月までには子会社の村田鋼業（本社・千葉県浦安市）を含む全ての部署・職場で実践されること。